

第3節 戦後復興期から高度経済成長期

1945（S．20）年～1958（S．33）年

（1）終戦直後

前項でも触れたように、第二次世界大戦で、墨田区は空襲により3回の被害を受けた＜図表2-3-1＞。しかし、当地区周辺は「墨田2、3、4、5丁目、東向島1、4丁目の一部は焼け残った（衣料品商店・古田さん）」というように、ほぼ全焼してしまった本所地区に比べると被害が小さかったため、区画整理は再びなされなかった。これは、被害が小さかったことに加え、当地区が低所得者地域だったことや敷地の狭い家が多かったことも大きい。経済力の低さ故に区画整理に伴う負担に耐えられなかった。区画整理によって1坪か2坪もっていかれただけで、建物がたたなくなってしまうのである。また、政治運動を起こすようなり－ダ－もいなかったため、予算が回ってこなかった。

当地区の敗戦直後の大問題は、東京都全体と同様、深刻な住宅不足であった。これは、一時的に田舎へ避難していた人や戦地へ赴いていた人が復員してきたことで、人口が急増し始めたからである。このような人口増加は、1948（S．23）年ごろまで続く。第1節＜図表2-1-6＞参照。そこで、住宅難解決の一環として水神森住宅などの都営住宅の建設が始まったが、住宅供給は人口増加に追いつかず、住宅難解消につながらなかった。

また、宅地化は田畑を1枚ずつ埋めていく形で進んできたので、道路は畦道の形をそのまま残し、住宅は密集することとなった。終戦直後の区画の未整備、住宅の密集が現在まで改善されずに残っているため、住民の中には「町並みは長屋がマンションになったくらいで変わらない」と言う人もいる。

当地区に第2次大戦前から住んでいた人は借家暮らしが多かった。地主の影響が衰えず、「たった3軒ほどの地主が、墨田3丁目あたりの広い土地を所有していた（紙器関係工場・大谷さん）」。これらの人々と対照的に、地方から出てきて創業した工場主には、持ち家の人が多かった。これは、戦時中にできた多くの空き地に新規の工場・商店経営者が入ってきたためである。別の言葉でいえば、当地区には消費地に近いというメリットがあったため、住宅地としてではなく、自営業者層の拠点として、また田舎から出てくる職人が独立するときの受け皿として位置づけられていったのである。だから、中小工場の労働者の居住形態のパターンには借家・間借りが多かった。この傾向は1965年（S．40年）に人口が飽和状態となるまで続いた。

このように、人口は増加していくものの、終戦直後は食料を始めとする全ての物資が不足しており、「食べるのにも苦しい時代（古田さん）」であった。工業については、住民、中でも帰還してきた人たちはとくに、急に工場を再開することもできず、生活の苦しい時期であった。地価の安さを求め、各地から移ってきた多くの工場経営者にとっても生活苦は同じだった。また、商業についても、「働けないし、商品が手に入らない。同業者の統廃合も多数あった（自転車専門店・有我さん）」といい、混乱の時代だったことがうかがえる。

（２）戦後復興期の商工業

１９４７（Ｓ．２２）年頃になると、商業・工業ともに復興していった。

工業については、「資生堂、久保田鉄鋼、日本電気精器など一部の大工場の下請け、孫請けの工場（東向島駅前商店会会長・関口さん）」や、「ゴム、プラスチックの工場が、空き地となっていた所に建ち始めた（寺七西町会会長・真田さん）」など、復興の兆しが見え始めた。

商業については、以下の古田さんの言葉から当時の状況がよく分かる。「衣料登録制度で許可が下り、昭和２２年３月に再び営業を開始した。当時は配給制で品物不足だったため、物があれば売れた。煙草を一箱買うにも朝の３時か４時から並ばなくてはならなかった。衣食住ではなく、食・住・衣の時代であり、今のようにデザイン面で満足がいくような品物があったというわけではない」。

また、商業の復興には赤線が存在が非常に大きな役割を果たした。「東向島１丁目、墨田３丁目に遊郭が再興した。吉原の様に大規模な遊郭ではなく、一軒あたり遊女４、５人の小規模な遊郭。水戸街道や東武電車を使って外から人が来始めた（古田さん）」。「第二次大戦で被災したが、すぐに（いろは通り商店街の裏に）赤線が復興したため、それに伴って、商店街の復興も早かった（真田さん）」。また、大工場とその下請け、孫請けやその他の零細小工場が多くあったので、「それらに伴って、赤線とか映画館といったような娯楽施設が多数あり、客を引き寄せた（関口さん）」。さらに、「赤線が存在がたぬき銀座、周辺の鐘ヶ淵、玉の井も発達させていた（若梅町会会長・小柳さん）」という。この結果、「昭和２４、５年頃には土地柄を思えば、ずいぶん商店街らしくなった。飲食関係の店から復興が進んだ。どこの店も無から始まったので、働けば働くほどいい時代だった。土地のお客さんに可愛がってもらって経営をしていた（古田さん）」。

では、数値で復興の度合いをみてみよう。昭和20年代の墨田区商業の推移から見ると、店舗数はほぼ横ばいであるのだが、経営規模と売上高は伸びていることが分かる。＜図表2-3-2＞1949（S.24）年から1954（S.29）年の間に、商店数は16%の増加にすぎないが、従業員数は63%増、売上高は254%増である。

（3）特需景気

1948（S.23）年に経済安定九原則が制定され、1950（S.25）年には朝鮮戦争が勃発し、アメリカ軍の生活物資などを供給することで、日本全体に特需景気がまきおこった。これが終戦後の不景気の転換点となる。

墨田区全体でみても、工場出荷額は1949（S.24）年の168億円から1951（S.26）年には510億円と、約3倍に成長を遂げている。当地区の人口も、1950（S.25）年から1955（S.30）年の間に、2万5000人から3万6000人と大きく増加した。この原因と考えられるのが、新工場主の増加に伴う従業員の当地区への移住である。特需の好景気に支えられて当地区の工場も少なからぬ恩恵を受けたため、どん底の状態からは一応脱して失業問題は影を潜めた。

しかし、全ての工場が等しく好況だったというわけではない。「朝鮮戦争の時は割合好調だった（工業用ゴム・渡辺さん）」「鉄屑が2トントラック1杯で5・6万円で売れた（ボルト製造・小山さん）」というように、大量生産を行う金属・ゴム関連の工場は好調であった。一方、「朝鮮戦争の影響はほとんど無かった。金型屋というものがどういうものなのか世間の人はいくらも知らなかったので、大幅に受注を伸ばしたりすることはなかった。賃金が安いのに物価が上昇したため、ストが起きたこともあった（金属プレス金型・松原さん）」というように、金型など大量生産に向かない業種は、景気の影響をそれほど受けなかった。この傾向は高度経済成長期にも同様といえる。また、好景気とはいえ、向島4丁目にあった公営質屋（昭和40年代に廃止）が大繁盛したことから分かる通り、大多数の住民の生活が苦しいことには変わりなかった。墨田区は生活水準が平均的に他の東京特別区と比べて低かったのだが【注1】、その墨田区の中でも当地区は貧しかったのである。その理由として挙げられるのは、一世帯あたりの人員が多くて支出が増す、勤務先の事業所が小規模で収入が低い、手工業的なものが多く収入が不安定、サラリマンも中小企業の事務員といった低収入の人が多い、などである。当地区は、中小零細企業が密集しているが、このことが、低賃金労働者の密集を生んだといえる。

(4) 高度経済成長期の工業

1955(S . 30) 年からの岩戸景気により、当地区周辺の工業は一層の高まりを見せた。工場経営は軌道に乗り始め、工場数はピークに近づいていく。ヒアリングによると、「ゴム工場を退職して、おもちゃ主体の製造工場を設立(梅若西町会・白鳥さん)」「荒川区で賃貸の工場・機械で経営していたが、賃貸料を払うより、自分の工場・機械を持ちたいと思い物件を探していた。たまたま墨田に手ごろな物件があった(ゴム金型・沼田さん)」というように、この時代にも独立・移転をきっかけに、この地域で操業を始めた工場は多かった。このためこの時期は、従業員の確保が大きな問題となった。人手不足が深刻化し、それを解消するために、地方からの若年労働者の受け入れが始まった。従業員数の増加ぶりは、＜図表 2 - 3 - 3＞を参照していただきたい。具体的な人員確保策としては、地方の中学校などに出向いて事業内容を説明し声をかけていく、ということが盛んに行われた。この当時の中卒の若年労働者は「金の卵」といってもはやされる程であった。しかし、簡単に中卒の労働者を確保することができない業種もあった。例えば、「金型工業はどういうものなのか、説明したりアピ・ルしたりするのが難しく、地方で人を集めるのが難しかった(金属プレス・松原さん)」。そのため、松原さんは、「縁故や職安を頼っていた」という。それでも、「実績が少しでも下がると、職安からの紹介も少なくなってしまう」と苦労が絶えなかった。

働きに来た従業員は基本的に、工場周辺に住まいを借りるか住み込みで働くかのどちらかであった。「地方から出稼ぎにきた従業員が多く、工場の2階を寮にするくらいだった(ボルト製造業・小山さん)」というように、建て替えを行って、従業員の住まいを確保した所も少なくなかった。また、従業員のほとんどは、将来的に独立することを視野に入れていた。というのも、町工場のような小さい工場ならば、全ての工程を経験することができるからである。あらゆる仕事を覚え、ノウハウを身につければ、容易に独立できる。しかし実際には、土地や機械が高いため、そして取引先の確保が難しいため、独立のタイミングを見極めるのが困難だったことも事実だ。当時の感覚は、「長男は家を継ぐものという昔からの商家の通念があり、特に抵抗なく、学校が終われば家に入るものと思っていた(古田さん)」という話からも分かるように、独立者は跡取りに比べて不利だった。また、個人の資質として、独立するほどの才覚がなかったり、補佐役の方が適任だったりした人もいた。そのため、「中卒から働いて、60歳まで働いた人がいた(金属プレス金型・松

原さん)」というような例もあった。

(5)工場集積の特徴

このように、墨田区工業は高度経済成長の波に乗り、近郊日用消費財の一大供給基地として、東京都東部の経済の中心的な役割を担うこととなった。

工場集積の特徴は、典型的な消費市場志向であった。大消費地に近いことがメリットだったので、消費者のニーズに合わせ、売れるものならば何でも作った。このため当地区には、相互関連性の乏しい様々な業種の工場が集積し、最終加工をして問屋に出すという川下産業が発達していった。

通常地方の地場産業は、原材料基盤に規定され単一製品分野に偏りがちである。それに対し、この地域の工場集積は上のような大都市ならではの地域産業コンプレックスとも言える。しかしこのことは、多様性をもたらした反面、地域内のネットワーク作りを困難にし、また、高度な技術力のいらない単純消耗品を製造することしかできなくした。こうして、当地区の工場が系列にならなかったことと技術力の低さは、2つの欠点を生んだ。1つは、流通機構が発達して、製造を大都市周辺で行われなければならない必然性が失われると、当地区に立地するメリットはなくなってしまうこと。もう1つは、日用雑貨を中心とする消費財の生産に傾斜していたため、大工場からの下請けがほとんどなく技術力の向上が見られなかった結果、時代の変化についていく競争力を養えなかったことである。ヒアリング結果を通じて、「玩具、ライター、曳船にある資生堂の依頼で化粧品の容器を作っていた（金属プレス金型・松原さん）」「工事用のポンプなどを作っていたが、日本電気精器の下請けもしていた（ゴム金型・沼田さん）」というように、一部の工場では下請けもしていたが、全体としては「業平の商社が取引先（工業用ゴム・渡辺さん）」「商社を1つ挟んで、区外の電気・電力メカと取り引き（小山さん）」というように、地域の大工場と直接取り引きしていたところは少なかったようだ。日用雑貨を生産していた工場のほとんどは、浅草や日本橋の問屋に納めていた。

(6)高度経済成長期の商業

工業とは対照的に、当地区の商業には、この好景気は無縁だった。

1957（S・32）年2月に売春防止法が施行され、玉の井周辺の赤線地帯は廃止された。しかし、赤線地帯は、普通の商売にすぐさま変更することは無理なので、飲み屋と

なった。その付近は、「現在でも飲み屋街になっており、中には当時のままの建物もある」という。

赤線廃止の結果、「商店街は売り上げが大幅に落ち、打撃を受けた（玉の井いろは通り商店街会長・田村さん）」「飲み屋街の集客力が低下して、活気も低下（梅若町会会長・小柳さん）」することになった。こうして商業は一時期大きく売り上げを落してしまった。元々、当地区周辺は近隣住民が主な客だったが、玉の井（現在の東向島駅周辺）では、他地域から赤線に遊びに来る人も、大きな顧客だった。それゆえ、赤線の廃止は、玉の井周辺の商店街の性質が近隣型へ変化したことを意味する。

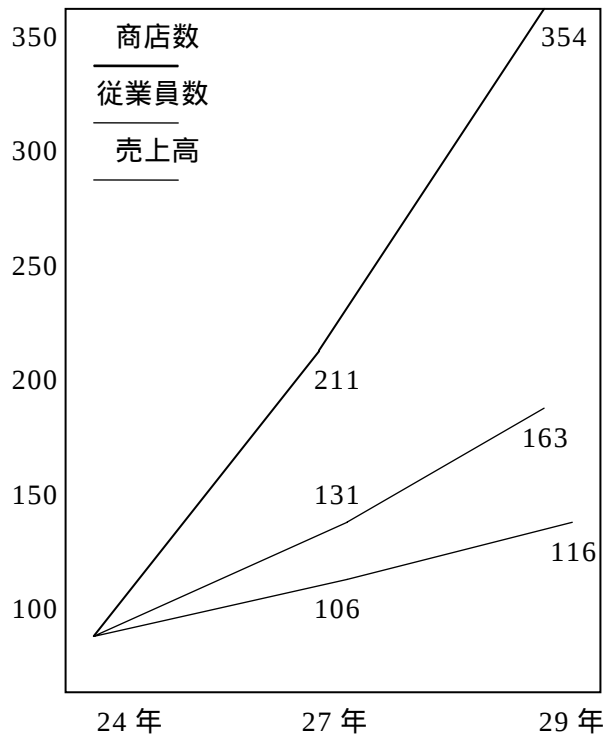
【注 1】墨田区民が語る昭和生生活史

< 図表 2 - 3 - 3 > 墨田区の規模別工場数・従業者数の推移

規模別（人）	昭和 31 年		昭和 35 年	
	工場数	従業者数	工場数	従業者数
1 - 3	2,515	6,906	2,732	6,906
4 - 9	1,440	9,558	1,694	11,322
10 - 19	1,195	16,000	1,382	18,660
20 - 29	352	8,323	520	12,253
30 - 49	275	10,310	338	12,548
50 - 99	141	9,248	196	12,854
100 - 199	44	5,964	69	8,820
200 - 299	10	2,368	13	2,703
300 - 499	10	3,921	13	4,309
500 -	7	6,488	10	9,123
計	5,989	78,578	6,958	99,498

：東京都「工業統計調査報告」

< 図表 2 — 3 — 2 >



昭和 20 年代の墨田区商店数の推移

(備考：昭和 24 年を 100 とした推移を示す)

< 図表 2—3—1 >

第二次世界大戦による墨田区内の焼失区域

墨田区役所『墨田区史 前史』第 8 章 p . 1076